

青少年センター運営委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 平成30年度第1回青少年センター運営委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成30年4月27日 午後1時30分から午後3時まで |
| 3 | 会 場 | 安曇野市役所 4階会議室403 |
| 4 | 出席者 | 内川会長、片桐副会長、望月委員、丸山委員、三澤委員、勝野委員、丸山委員、川口委員、降旗委員、三好委員、中沢委員 |
| 5 | 市側出席者 | 西村部長、臼井課長、山口係長、池田指導員、曾山 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成30年5月7日 |

協 議 事 項 等

◇会議の概要

- 1 開 会
- 2 委嘱書の交付
- 3 青少年センター所長あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 協議事項
 - (1) 会長、副会長の選出
 - (2) 平成30年度安曇野市青少年センター事業計画について
 - (3) 青少年センターだより第11号について
 - (4) その他
県下一斉街頭啓発活動について
- 6 閉 会

◇協議事項概要

- (1) 会長、副会長の選出
会長に内川委員、副会長に片桐委員を選出
- (2) 平成30年度安曇野市青少年センター事業計画について
委員：運営委員会の年間の日程は決まっていないか。
事務局：早めに決定してお知らせします。
委員：他にいろいろな会議の予定がある。年間で計画を示してほしい。
事務局：各委員の都合の悪い曜日があれば教えて欲しい。
委員：6月の予定だけでも、今、決めて欲しい。
事務局：6月29日、午後1時30分からに予定します。その後の予定については都合の悪い日を5月10日までに事務局へ連絡をしてください。その後決定し、お知らせします。
- (3) 青少年センターだより第11号について
運営委員会構成団体の紹介は穂高地域青少年育成連絡協議会に記事を依頼する
- (4) その他
県下一斉街頭啓発活動を7月2日に実施予定

委員：保護司会から選任されているが、29年度と30年度の就任と聞いている。委嘱期間は平成32年3月31日までというのは間違いではないか。

事務局：青少年センター運営委員の任期は2年となっていて、昨年度は前任者の残任期間でした。今年度はすべての委員が改選となり平成30年4月1日から2年の委嘱期間になるので間違いではないです。

委員：事業計画の中の講演会について、事務局は大勢に参加してほしいというが、昨年、一昨年と参加者が少ない。計画したセンター運営委員も参加しない。考えて欲しい。

委員：3月24日に開催された講演会の内容は非常に良かったが、運営委員の参加は4人

だった。一般参加に知り合いがいたので講演会に来た理由を聞いたが、子どもが持って帰ったチラシを見て来たとのことだった。

委員：私の子どももチラシを持って帰ってきたが、チラシの文面からは興味がわかなかったので行かなかった。土日子どもたちは忙しい。体験型だと興味がわき行く気になる。

委員：3月末の開催では、大人でも忙しく参加は難しい。開催日は考えた方が良い。

委員：今年度はできるだけ多くの方に参加していただけるような内容や日時を考えたい。

委員：穂高と明科には地域の青少年を見守る会があるが他の3地域にはない。運営委員会はこの状況をどのように考えているのか。他の地域にも会を発足させようという機運を起こすということもセンターの大事な仕事ではないのか。

委員：過去に他の3地域にも作る方向で検討をしてほしいという話はしている。しかし地域の方がその気にならない事には難しいと思われる。

委員：青少年の育成にはいろいろな団体関わっているが、地域に青少年育成団体があれば地域に呼びかける力があると思う。安曇野市となった今、地域を持ち出すのはいけないかもしれないが、地域に青少年育成団体を作る呼びかけは大事だと思う

委員：青少年サポーターが安曇野市にも何人かいると思う。センターでその人材を上手に利用する方法を考えていかないといけない。サポーターにもセンターの事業に積極的に参加してもらおうようにするのが大事ではないか。

委員：昨年もサポーターについては議論があった。市町村推薦のサポーターの名簿はセンターで作成して県に提出している。我々運営委員もサポーターの一員になっているが、具体的な活動はしていない。登下校の見守りや声掛けなどを実施する時、身分を証するものが何もない状態で活動しろと言っても無理なので事務局で検討してほしいとお願いしている。

委員：運営委員会の中でサポーターには何をしてもらいたいのかを検討をすることはできないのか。

委員：それはできる。運営委員と青少年委員がサポーターになるという考え方はある。ただ、本人の同意を持ってということなので、以前の運営委員は引き続きサポーターとして活動していただけるかどうか、新たに委員になった人もサポーターとして登録していただけるのか、個人に確認を取らなければならない。ただ、名簿に名前を載せても、サポーターはこういうものでどういった活動をするといった具体的なものが目に見えていない。安曇野市は県の設置要綱にある市町村毎の委嘱人数の基準からすると人数的にもかなり少ない。腕章やジャンパーなどがないと活動は難しい。

事務局：市民からみて、あの人は青少年サポーターだとすぐにわかるものが必要だということですね。

委員：個人で県に直接申し込んだ人は県からビブスが送られてくる。

委員：市町村推薦で申し込んだサポーターには、何も与えられていない。それでは意味がないので、事務局としてなんとかしてもらいたいとお願いしている。

事務局：県に確認します。

委員：講演会の対象は大人だけなのか。子どもも一緒に参加できるものなのか、それによって人集めの対象が変わってくる。

委員：青少年というと小学生か中学生か高校生というところだが、誰をターゲットにするか難しい。

委員：対象者を絞って講師の選定を行う組み立てをしないといけない。漠然と講師の都合、会場の都合、事務局の都合で設定しても人は集まらない。

委員：青少年の講演会なら、親子で参加できるものを企画することが大事では。子どもとともに学べる物にターゲットを持っていくべき。

委員：講演会は9月に決定なのか。夜の開催は無理か。

事務局：昼間でも夜でも可能なので、考えたいと思います。

委員：いろいろな場所で講演会が開催される。講演会単独ではなく、会議や何かの会と抱き合わせでできないのか。そうすれば、対象も絞られるし人も集まる。ただ、センターの事業として、本当にやらなくてはいけないものなのか。

事務局：意見として聞いておき、検討したいと思います。